

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	34° 25' 49.00"	
				経度	135° 43' 11.00"	
下茶屋橋 (フリガナ) シモチャヤハシ	名柄44号線	御所市下茶屋229地先				
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
御所市	2015.1.28	河川(葛城川)	有	一般道		上水道φ150 NTT

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)

点検者				(一社)近畿建設協会		点検責任者		久保 元生		
点検時に記録				措置後に記録						
部材名		判定区分 (I~IV)	変状の種類 (II以上の場合に記載)	備考(写真番号、位置等が分かるように記載)		措置後の判定区分		変状の種類		措置及び判定実施年月日
上部構造	主桁									
	横桁									
	床版	III	剥離・鉄筋露出	写真1、床版01						
下部構造		II	剥離・鉄筋露出	写真2、橋脚02						
支承部										
その他		II	路面の凹凸	写真3、路面01						

道路橋毎の健全性の診断(判定区分 I~IV)

点検時に記録				措置後に記録			
(判定区分)	(所見等)			(再判定区分)		(再判定実施年月日)	
III	床版全体のコンクリートが劣化しており品質が極めて悪いため、既設橋の補修対策では長期供用の安全性確保は困難である。						

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員	起点		終点
1956年	15.10m	4.10m			

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	34°28'11"		
				経度	135°42'41"		
兄川1号橋 (フリガナ)アニガワイチゴウキョウ		大正140号線	御所市小林7-8				
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)	
御所市	2017.10.4	河川(兄川)	有	一般道	その他	無	

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)

		点検者	(株)阪神コンサルタンツ		点検責任者	村上 恭一
点検時に記録				措置後に記録		
部材名	判定区分 (I~IV)	変状の種類 (II以上の場合に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	措置後の 判定区分	変状の種類	措置及び判定 実施年月日
上部構造	主桁	I				
	横桁	II	漏水・遊離石灰	写真1,横桁02		
	床版	III	漏水・遊離石灰	写真2,床版03		
下部構造	II	ひびわれ	写真3,下部工01			
支承部	I					
その他	I					

道路橋毎の健全性の診断(判定区分 I~IV)

点検時に記録		措置後に記録	
(判定区分)	(所見等)	(再判定区分)	(再判定実施年月日)
III	遊離石灰に錆汁の混入がみられ、早期の橋面防水構築が必要。ひび割れ補修、断面修復(特に横桁)の実施も望まれる。		

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員	
1985年	18.0m	10.0m	
起点側		終点側	

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

状況写真(損傷状況)

○部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載の

○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

<p>上部構造(横桁)【判定区分: Ⅱ】</p>  <p>写真1,横桁02</p>	<p>上部構造(床版)【判定区分: Ⅲ】</p>  <p>写真2,床版03</p>
<p>下部構造【判定区分: Ⅱ】</p>  <p>写真3,下部工01</p>	<p>【判定区分: 】</p>

橋梁名	路線名	所在地	起点側	緯度	34°28'06"		
				経度	135°44'37"		
西原橋 (フリガナ)ニシハラバシ		元町蛇穴線	御所市東辻116-2				
管理者名	点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)	
御所市	2017.9.20	河川(葛城川)	有	一般道	その他	無	

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)

点検者		(株)阪神コンサルタンツ		点検責任者		村上 恭一	
点検時に記録				措置後に記録			
部材名	判定区分 (I~IV)	変状の種類 (II以上の場合に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	措置後の 判定区分	変状の種類	措置及び判定 実施年月日	
上部構造	主桁	I					
	横桁	I					
	床版	III	鉄筋露出	写真1,床版03			
下部構造	II	鉄筋露出	写真2,下部工01				
支承部	I						
その他	II	路面の凹凸	写真3,路面01				

道路橋毎の健全性の診断(判定区分 I~IV)

点検時に記録		措置後に記録	
(判定区分)	(所見等)	(再判定区分)	(再判定実施年月日)
III	広範囲に鉄筋露出がみられる。早期の断面修復が必要。橋面防水層の構築、塗装塗替えも望まれる。		

全景写真(起点側、終点側を記載すること)

架設年次	橋長	幅員	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;"> <p>起点側</p>  </div> <div style="width: 30%; text-align: center;">  </div> <div style="width: 30%;"> <p>終点側</p> </div> </div>
1971年	28.60m	4.60m	

※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

状況写真(損傷状況)

○部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載の

○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

<p style="text-align: center;">上部構造(床版)【判定区分: Ⅲ】</p>  <p style="text-align: right;">写真1,床版03</p>	<p style="text-align: center;">下部構造【判定区分: Ⅱ】</p>  <p style="text-align: right;">写真2,下部工01</p>
<p style="text-align: center;">その他【判定区分: Ⅱ】</p>  <p style="text-align: right;">写真3,路面01</p>	<p style="text-align: center;">【判定区分: 】</p>